

中心児報

発行日：2025（令和7）年12月24日
発行：社会福祉法人 中心会
児童養護施設 中心子どもの家
相模原市中央区田名10125
TEL：042-764-7046
URL <http://kodomo.chusinkai.net/>
E-mail kodomonioie@chusinkai.jp
発行責任：所長 丹 清



「真心に育つ」 創設者 常岡一郎 揮毫



誇りに思う相模原市の児童福祉行政 （一時的に保護された児童の通学支援の例）

所長 丹 清

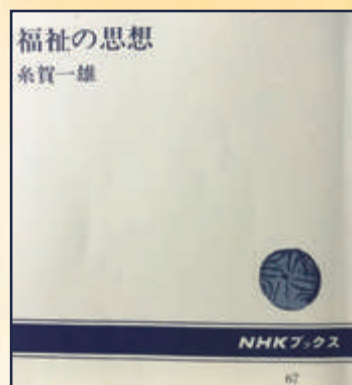
当施設では、一時的に保護された子どもをお預かりする際、その子がこれまで築いてきた友だちや教職員との関係をできるだけ途切れさせないことを大切にしてきました。だからこそ、職員が施設の車で在籍校まで送迎するという方法を続けてきました。最も遠い学校では、往復に1日4時間を要しました。それでも「子どもの成長に必要なつながりは守りたい」という思いで、現場は踏ん張ってきました。しかし、所長として正直に申し上げれば、この体制を施設だけで担い続けるには、大きな困難がありました。

毎日新聞の全国調査によれば、2022年度に一時保護された小中学生の通学率は6%にとどまり、理由の多くが「送迎体制の不足」と「在籍校の遠方」です。全国的に“子どもの通学する権利”が十分守られていない現状は、児童福祉に携わる者として残念でなりません。

そうした中で、相模原市の児童福祉行政は、今年の夏からタクシーによる送迎を導入し、秋からは市が公募した添乗員さんまで配置してくださるという、大変思い切った支援を決断してくださいました。市民の皆さまの日常にはあまり見えにくい取り組みかもしれませんが、私たち現場の者には、その決断がどれほど子どもたちを支える力となっているか、はっきりと分かります。

私は、この相模原市の姿勢を心から誇りに思います。これは単に交通手段を整えたという話ではありません。日本の社会福祉の発展に大きな影響を与えた糸賀一雄の言う“価値観の創造”そのものであり、「子どもが当たり前の生活を送れる社会」をつくろうとする強い意思の表れです。こうした価値観が広がることこそが、市民全体の福祉の向上へつながっていくと確信しています。

施設としても、行政と協働しながら、子どもたちの“当たり前の生活”を守り抜く責任を引き続き果たしてまいります。





生活の様子

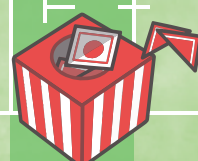


ダイナボアーズ招待

9月の秋晴れの中、三菱重工相模原ダイナボアーズさんからの招待をいただき「ダイナボアーズ地域感謝祭」に参加させていただきました。

感謝祭では、様々なブースのお手伝いを子どもたちと一緒にさせていただきました。たくさんの方が参加されたイベントだったため、各ブース長蛇の列ができおり子どもたちも慣れない体験で戸惑ってしまう場面もありましたが、とても貴重な体験をさせていただきました。

また、試合観戦は、三菱重工相模原グラウンドならではの選手との距離の近さから大迫力の試合を観戦することができ、子どもと共に圧倒されてしまいました。試合後には、グラウンドに入らせていただいたりと沢山の貴重な体験をさせていただき素敵な一日となりました。



グッズ
販売



ライブクッキング開催!



ライブキッチンというシェフが目の前で料理を仕上げるサービスを意味する言葉を拝借して「ライブクッキング」という活動を始めています。調理員が子どもたちのリクエストメニューを聞いて一緒に作りあげるという活動です。

今日は大地の家でリクエストの「カツ丼とポテトサラダ」を作りました。

リクエストをしたメニューということもあり子どもたちが一緒に食事を作ってくれました。はじめて豚カツの衣をつける作業を、塩こしょう役、パン粉役等…それぞれ役割分担して楽しく料理を作っていました。

普段は調理室で作ったものを提供しているので、調理工程を見たり作業したりする機会は少なく、今回のカツ作りでは、「へえ〜こうやって衣ってつけるんだ」と子どもたちにとって新しいことを知るきっかけになったようでした。調理員にとっても子どもたちの反応を間近で感じることができるので、楽しい時間となっています。



七五三

晴天に恵まれ、今年も亀ヶ池八幡宮へ七五三のお参りに行くことができました。多くの方にご協力いただき、子どもたちの晴れ姿を写真に収めることができました。準備からお参りを終えるまで長い時間ではありましたが、鏡の前で変身した自分の姿を見つめ、少し照れながらも嬉しそうにしている様子が印象的でした。また、普段とは違う晴れやかな姿に大人たちも思わず笑顔になる時間となりました。



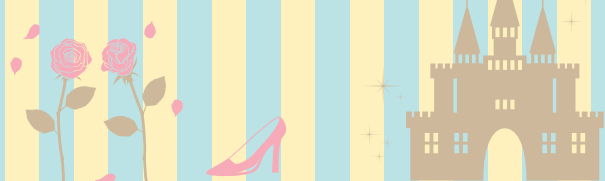
大人サンタさんとディズニーへ

児童養護施設の子どもをディズニーランドに招待してくれる大人サンタさんという方がいます。11月22日(土)、23(日)と大人サンタさん主催でホテルに宿泊しディズニーランドへ行ってきました。

ディズニーランドのホテルに宿泊してみたい、朝食ビュッフェはどんなだろう、お土産は何を買おうかな、アトラクションはどれに乗ろう…。

そうした子どもたちの夢を叶えるお手伝いを大人サンタさんにしてもらい、沢山寄り添っていただきました。今回の体験は、今後の子どもたちの人生にとってかけがえのないものになったと思います。

一生心に残る思い出となりますように…。



ハピネスフェスティバル を開催しました!

Happiness Festival



2019年度以来、久しぶりに地域の方にも参加していただける行事として実施することができました。

6年も経てば地域の方々が参加されていた行事を経験している職員、子どもの方が少なく、楽しみである反面、良い形で実施ができるのか不安も大きいものでした。

そうした中ではありますが、子どもたちと職員で協力しながら準備を進めてきました。今までもおこなってきたポスター作成や材料の買い出し、会場の机やテント張りだけでなく、今回は装飾にもこだわって、子どもたちと共にフェスティバルの看板を作りました。写真はその時の様子です。みんなで力を合わせて作った看板、いかがでしょうか？

もちろん、準備だけでなく片付けもみんなでおこないました。声を掛け合い、協力しながらの準備、片付けはとても速やかに行うことができました。

地域の方、卒園生や元職員の方など、様々な方が参加してくださった『ハピネスフェスティバル』。美味しい食べ物や、楽しい遊び、素敵なステージと盛りだくさんで賑やかなものとなりました。ご来場の皆様方の笑顔も溢れ、素敵な時間になったのではないかなと思います。

ご寄附お礼

[2025年7月～9月]



大森 響子 様、小原 成人 様、石橋 照菜 様、長谷川 貴美子 様、渡邊 淳子 様、鶴味 和雄 様、高橋 宏康 様、
会田 吉美 様、山岸 敏子 様、石部 美智子 様、床ヤ タイセイ 重森美幸 様、株式会社 MOTTERU 様、
三菱重工業株式会社 相模原製作所 もうかりまっ会 様、株式会社 ノジマステラスポーツクラブ 様、
横浜幸銀信用組合 様、マルハン橋本台店 様、チャンピオン田名 様、公益財団法人 日本漢字能力検定協会 様、
株式会社インタージャンク 代表取締役 佐藤 善彦 様、(株)ザ・シティ相模大野店 様、
神奈川県遊技場協同組合様、りつの本医院 院長 立之 英世 様、
一般社団法人 神奈川県養豚協会 様、株式会社 三景 代表取締役 角谷 豊人 様

熱いご支援
ありがとう
ございます

